

答え合わせ・解説 No.6

問1	答え 1 韓国	東アジアでは急速な経済発展や社会変化に伴い少子高齢化が進行している。特にこの国では、激しい受験競争や不動産価格の高騰、雇用の不安定化などを背景に少子化が極めて深刻化しており、合計特殊出生率は1を大きく割り込んでいる。これにより、人口ピラミッドは底が狭い「つぼ型」の傾向を強めており、高齢化率が急速に上昇することが予測されている。
問2	答え 2 ニュータウン	郊外に計画的に建設された住宅地（ニュータウン）では、開発初期に若いファミリー層が一斉に入居したため、核家族世帯の割合が非常に高くなる特徴がある。これに対し、都市中心部や主要道路沿いでは賃貸住宅が多く利便性が高いため、転勤者や若者が集まり居住期間が短い人口割合が高くなる。また、都市周辺の農村部では農業が営まれているため第1次産業就業者世帯割合が高くなるという、都市内部の機能分化に伴う人口・世帯構成の空間的分布が見られる。
問3	答え 3 シバーム	アラビア半島南部のイエメンに位置するこの都市は、粘土とわらを混ぜた日干しレンガを用いた5～8階建ての高層建築が密集していることで知られる。この密集した構造は、強い日差しを遮って日陰を作り、砂風の侵入を防ぐ役割を果たしている。また、外敵や洪水から街を守る城壁で囲まれているのも特徴である。
問4	答え 2 スラム	発展途国の大都市では、地方からの急激な人口流入に対して住宅やインフラの整備が追いつかず、都市最縁辺部の低湿地や急斜面などの居住に適さない場所に、簡易的な住居が集まる不良住宅地（スラム）が形成される。ラテンアメリカでは、ブラジルのファベラなどがその代表例である。
問5	答え 4 ハーロー	イギリスでは、1946年のニュータウン法に基づき、ロンドンの過密対策として周辺に複数の計画都市が建設された。その代表例がハーロー（Harlow）であり、これらは職住近接型の自立した都市として設計された。
問6	答え 1 庄内平野	最上川の下流域に位置するこの地域では、冬季に日本海を渡る冷たく湿った北西の季節風が強く吹きつけるため、風雪から家屋を守るための屋敷林が伝統的に設けられてきた。これに対し、最上川の中流域などの内陸盆地では、積雪への対策として急傾斜の屋根や高床などの工夫がみられる。なお、これらは夏季のやませ（冷害をもたらす北東風）への対策ではない点に注意が必要である。
問7	答え 4 地理情報システム (GIS)	コンピュータ上で位置情報（空間データ）を持つ様々なデータを重ね合わせ、分析や表現を行う技術を地理情報システム（GIS）と呼ぶ。都市郊外の土地利用変化を時系列で追う際、空中写真や衛星画像から得られた土地利用データをGIS上で重ね合わせることで、農地から住宅地への転用状況などを視覚的かつ定量的に把握することができる。
問8	答え 1 ベッドタウン	中心都市への通勤・通学に依存する周辺地域では、住宅地としての開発が進み、昼間は中心都市へ人口が流出するため、夜間人口が昼間人口を大きく上回る。このような地域はベッドタウンと呼ばれ、職住分離が顕著である。
問9	答え 2 白豪主義	1901年の連邦結成時に法制化された、白人以外の移民を制限・排除する政策。第二次世界大戦後の労働力不足や国際的な批判、アジア諸国との経済的結びつきの強化などを背景に、1970年代に完全に撤廃された。その後、オーストラリアは多様な文化を認める多文化主義へと舵を切り、アジア系移民が急増することとなった。
問10	答え 1 常滑市	知多半島は名古屋大都市圏の一部を構成しており、名古屋市に隣接する北部（大府市や東浦町など）ではベッドタウン化が進み、人口増加率が高く老年人口割合が低い。これに対し、中部国際空港（セントレア）が位置する常滑市は、空港の開港による産業活性化はあるものの、名古屋市中心部からの距離があるため、北部ほどの急激な人口流入はみられず、老年人口割合も北部より高めにとどまっている。さらに南部（美浜町や南知多町など）では、過疎化と高齢化がより深刻化している。したがって、空欄に該当するのは常滑市である。